自己点検・評価を経て
大学教育センターの活動の発展を目指す

大学教育センター長　福嶋　司

本学の大学教育センターは，東京農工大学の教育理念を実現するために，「全学的な視点から教育及び学生の受け入れに関して研究・企画・調整を行い，その改善を進めるとともに，全学教育の企画及び実施に関して主導的役割を果たすこと」を目的として，平成16年４月に設置されたものである．センター関係者はこの３年，設置目的に沿った様々な活動を展開し，成果もあげてきた．しかし，一方では，センターの設置目的と活動が全学の構成員に十分には浸透せずに過ぎてしまったのではないかという反省もある．センターの発足以来，事務組織の改変や構成員の移動などセンターの体制にも変化があった．このような環境の中でセンターの自己点検・評価を行う必要があるとの認識が高まり，平成18年９月には自己点検・評価の実施を大学教育センター運営委員会で決定し，ＷＧを設置して点検活動を開始した．

この自己点検・評価は，大学教育センターのこれまでの活動を点検・評価し，その結果を大学構成員に示して評価願うことが主な目的であるが，センターに関係する教職員がセンター発足以来の活動を振り返り，成果を認識し，問題点を知ることで，改善を含めて進むべき方向を確認することも意図したものであった．

今回の自己点検・評価の実施項目と点検の結果については，後半に梅田倫弘副センター長の報告「大学教育センターこの１年の歩み」の中に記されているので詳述は避けるが，点検・評価の観点として①センターと各部局，全学の委員会等，大学構成員との関係が緊密に構築されているか，②３つの部門に期待されている「活動」が十分に達成できているか，③各部門間の協力体制が構築されているか，④事務組織がセンターの活動支援に機能しているか，の４項目を設け，観点毎にこれまでの活動実績の点検，今後の活動予定，改善を要する点を抽出している．この点検・評価の結果，本学が平成18年度に受審した大学機関別認証評価の評価結果（案）において「センターの活動については優れている」と評価されたことからもわかるように，目的に沿った活動は着実に成果を上げていると判断した．しかし，最も大切である大学教育センターと全学との密接な関係構築については今後も努力が必要なこと，また，各部門間のリンケージをより一層強める必要のあること，さらに，事務組織のセンター支援体制を点検することが必要であること，などが明らかになった．自己点検・評価結果の詳細は大学教育センターニュース特別号として刊行された「東京農工大学大学教育センター自己点検・評価報告」を見ていただくこととしても，今回の自己点検・評価での大きな収穫は，これまでの活動を見直すよい機会となったことであり，今後の進むべき方向と改善点が見えてきたことである．今後は，大学教育センターに期待されている活動を着実に進めながら，「改善を必要とする事項」について具体的に改善を進め，センター構成員に一丸となって，個性ある理想的な「東京農工大学の教育」の追求を一層進めたいと考えている．